

中学2年2組 国語科学習指導案

指導者 湯 浅 哲 司

グループでのシナリオ作りを行っていくことや学級で発表することを通して、子どもたちのかかわりをもたせ、多様な小説世界のおもしろさを意識させたことは、思考力・判断力・表現力を高め合うことに有効であったか。

1 単元名 メロスを読み味わおう ～シナリオで楽しむ小説世界～

2 授業の構想

(1) 本学級の生徒の国語への取り組みは、概ね積極的で国語科の活動「話す・聞く、書く、読む」について、しっかりと取り組み、課題等を行うことができる。話し合い活動、表現的な活動などについても全体的に積極的な態度をもって行うので、様々な事柄に挑戦していくことが可能と考えている。また、日々のノートへの記録についても多くの生徒が、意識して字形を整えようと努力したり、見やすいようなノート作りを考えたりした取り組みを継続的に行っている。グループ活動は、そう頻繁に行っているわけではないが、多くは隣同士の男女で相談するなどの活動を行い、課題解決に向けて積極的な話し合いを展開することができている。

先般、授業で扱った菊池寛『形』の感想の一部に、以下のようなものがあった。

- ①新兵衛は、簡単によろいやかぶとを貸してしまわなければよかったのに。
- ②形ばかりが一人歩きして大きくなってしまって、中身はたいしたことがないので、雑兵にやられてしまった。
- ③まずは中身を鍛えていくべきである。
- ④形と中身の双方のバランスが人間にとって大切ではないか。
- ⑤私たちの生活の中でも、形に恐れてしまうことがある。例えば、相手が身につけているものや、ユニフォームなどだ。こうしたものにまどわされず、中身を見ていけば実力が出せると思う。

①～⑤を見たとき、多くみられるのは、②、③、④のような感想である。つまり、小説を客観的に見ながら、しかもコンテクスト（文脈）を真正面からとらえ、主題にせまれているものである。それに対して、①は小説と自己との関係がやや主観的であり、小説の中に入りながら読んでいるように思われる。これは、小学校低学年で物語にひたりながら読んできた頃からのものであり、少しずつ読者としての客観性をもって読んでいくべきと考える。また、⑤では自己の経験を入れながら、さらには雑兵の視点に主題をもとめているところに特徴がある。この時期、小説を読むとき、直接主題をとらえているものが多いが、中には小説世界を大きな比喩として見たり、多義的な文学言語を見いだしたりしている生徒もある。

こうした生徒の実態をふまえたとき、小説教材を読んでいく上で、しっかりと小説世界を味わうと同時に、それを肉付けしていく活動（シナリオ作り、朗読、劇化など）を通してその世界を広げたり、いっそうパラエティーに富んだ物にしたりして楽しんでいくことも必要と考える。ことに、グループで友達と考えを出し合って一つの作品を作り上げていくことは、一人一人の読みを育てる上で有効なことと考える。また、学級全体で読みを交換することによって、自分が気づかなかった意味を見いだすこともできると考える。さらには、多義的で重層的な文学言語の世界を少しでも意識して、読ませていきたい。

(2) 『走れメロス』は、太宰治の作品群の中では、中期のものとして位置づけられる。この時期の太宰は生活に安定が見られ、作品も健康的で、人間の愛や真実、友情をテーマにするなど、明るいユーモア

にあふれた作品も多い。

本作品のあらすじは、人間不信に陥った王に対して、正義感の強いメロスが、約束を果たすことによって人間の信実の力を示す、というものである。ここに描かれている人物、特にメロスの心情の微妙な変化が巧みに表現されており、これを読んでいくことが本作品を楽しむことになることともに作品のテーマに近づくことにもなる。しかし、あまりにもできすぎたお話として、リアリティーのなさに生徒は失望を感じてしまうことも考えられる。生徒がこうした失望に終わらず読みを深めていくには、本作品の登場人物メロスや暴君ディオニス、そして竹馬の友セリヌンティウスなど、一人一人が作者太宰の心情であり、「人を信じることの尊さを信じたい・・・」という作者の心を多面的にとらえていくことが大切であると考え。これを読み取るためには、登場人物の台詞の意味と心の中を対比的にとらえたり、台詞もないような登場人物の一人一人を作者太宰を投影した存在としてとらえたりしていくことも有効になると考える。

本単元では、小説世界を味わいながら、それに自分なりの読みを加えてその世界を広げたり、いっそうバラエティーに富んだ物にしたりして楽しんでいくことができるようにしていきたい。その過程において、自分が気づかなかった意味を見いだしたり、多義的で重層的な文学言語に気づいたりすることができるように考えている。

(3) こうしたことをふまえて、本単元では、『走れメロス』の世界を読み楽しむ、ということを生徒達の目標として学習を進めていきたい。特に、読みを深めることができそうな部分については、シナリオで表現するなどの活動を通して、様々な角度や立場から読み、文学の多義性、重層性を味わったり、意識したりしながら読み進めさせたい。

小説の一部をシナリオで表現するというグループ活動をとおして、小説全体の中における意味、言葉の裏側のメッセージなどを考えながらシナリオを作らせたい。その中で、登場人物の心の葛藤が自然に描かれるようにし、小説世界をいっそう深く味わわせたいと考えている。こうしたことを表現方法の一つとして、登場人物の心の中での自問自答などをとりいれていきたいと考えている。

シナリオ作りについては、手引きを参照させたいと考えるが、基本的に5人のグループで活動を分担して進めさせたい。係としては、執筆者、アイディアマン、進行役などに分けて制作させることによって、円滑に進むようにしたい。話し合う内容については、心の中を中心にできるだけ焦点化していきけるよう、ワークシート等に工夫をしていきたいと考えている。

そして、グループで一緒に読む練習をするところを大切にしていきたい。ここから、それぞれのグループの読みを意識させると共に、教師の側でもそれを指摘するなどし、生徒達に気づかせたい。

3 活動展開計画（全7時間 本時4／7）

次	時	主な学習活動	具体的な学習活動
1	1 2 3	○『走れメロス』を読む	全文の通読 語句の確認 小説の構成の確認等 登場人物の確認
2	4 5	○シナリオ作り	グループでのシナリオ作りを行う。 場面等については教師の側であらかじめ決めておく。 役割分担 執筆者、アイディアマン、進行役 登場人物の決定 台詞等の決定 登場人物の心の中をを考える、など。 シナリオ発表の練習

3	6 7	○シナリオの発表を楽しむ	シナリオ発表会を行う。 グループで発表を行う。 感想の交換 ふりかえり
---	--------	--------------	--

4 評価計画

次	時	関心・意欲 ・態度	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	国語科における思 考力・判断力・表 現力
1	1 2 3	走れメロス を意欲的に 読んでい る。			文章の構成 や展開，表 現の仕方につ いて注意 して読んで いる。	多義的な意 味を表す語 句に着目し ている。	
2	④ 5	心の声を意 欲的に想像 して，シナ リオを作っ ている。	グループで 目的に沿っ て話し合い， 検討してシ ナリオを作 っている。	場面の様子 や人物像が 伝わるよう 工夫して描 写している。	抽象的な概 念を表す語 句や心情を 表す語句に 注意して読 んでいる。	抽象的な概 念を表す語 句や多義的 な意味を表 す語句に着 目している。	グループで意見を 出し合いながら， 登場人物の心の声 を想像して，シナ リオを作っている。
3	6 7	友達と協力 してシナリ オを発表し たりきいた りしている。					グループで協力 し，シナリオ世界 を演じている。

5 本時の学習

(1) ねらい

- ・グループでアイデアを出し合ってシナリオを完成させることができる。
- ・グループや学級などで様々な読みにふれ、多義的な文や言葉を味わう。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
1. 本時の学習を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>『走れメロス』のシナリオをつくろう 1 メロスが王城にとらわれる部分をシナリオにしよう</p> </div>	
2. シナリオ作りをする。	
<p>○5人グループで行う。</p> <p>○場面の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロスが王城にとらわれる部分 <p>○シナリオを書く。</p> <p>場面ごとのワークシートに書き込む。</p> <p>※心の声を考えて書く。</p> <p>メロスや王の自問自答に 性格の異なる主人公を考えて、その声 を書き込む 言葉の裏にある気持ちの奥底を考えよ う。</p> <p>○配役の決定</p> <p>メロス</p> <p>メロスの心の声 人を信じる強い心をもつ 人を疑う心も少しはもっている など</p> <p>王</p> <p>王の心の声 猜疑心のかたまりの王 裏切られ続けて心が麻痺した王 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を把握させるために、部分的な音読等を行う。 ・活動内容を把握させるために手引きを配布し、シナリオ作りを具体的にイメージさせる。 ・台詞を考える部分を明確にしたワークシートに書き込むようにする。 ・登場人物の心の声（自己内対話）を想像することによって、人物や小説世界を深めさせたい。 ・グループの人数にあわせておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>— 評価の観点(思考力・判断力・表現力) —</p> <p>メロスや王などの葛藤のある心情をシナリオにして表現している。</p> <p>【評価方法 ワークシート、発表】</p> </div>
3. シナリオを読む練習をする。 性格をとらえて読みをつくっていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで小説世界を共有し合って、息の合った音読ができるよう練習する。
4. ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーズリーフに感想を書いて次時につなげていく。